

## 「葛葉川本谷・沢登り」山行報告

2016年5月21日(土)、丹沢の葛葉川本谷での沢登り。メンバーは、4人。朝、秦野駅に8時に集合し、そこからタクシーで、葛葉学園の奥まで入り、ゲートで降りる。車がすでに何台か止まっていた。木のベンチに座って身支度を整え、桜沢橋を渡って、右岸の登山道を少し行き、9時少し前に入渓。沢から見上げる森の上には青空が広がり、気温も高く、絶好の“沢登り日和”。水量は予想より多く、やる気が湧いてくる。小滝が続き、水の勢いに負けないように、うまくバランスを取りながら行く。水の中は滑らない。

9時半頃、幅広のF3(10m)は水流の左側を躊躇なく登る。この滝を登った所で、ザイルワークの勉強をする。数本の木に支点を取り、メインロープで自己確保し、次の人を引っ張りあげる動作のやり方を確認。V字の二条滝F4(8m)は左のルンゼを登る。

10時10分、F5(7m)板立ノ滝はほぼ垂直に立って、滑り易くなっており、直登は無理。右側の乾いた岩場を登る。ハーケンが何箇所か打ってある。Wさんがリードし、後続者はザイルで確保してもらいながら登る。最後の上がり切る所がちょっと苦勞する。

小滝を挟みながら、階段状のF6(7m)、曲がり滝のF7(2段10m)などを越えて行くと、前方に林道の白い橋が見えてくる。その橋をくぐって11時頃、陽当たりのよい場所で長めの休憩をとる。

その後はF8(2段10m)やF9(5m)などを交えて小滝と共にやり過ごししながら、11時40分、F10(2段10m)富士形ノ滝は右の乾いたクラックを登る。このあたりになると流れも細くなり、トイ状のナメ滝を、水流の中どどん登って行く。

12時10分、水も涸れガレ場になる。後ろを振り返ると、山と山の間から、下界の平らな景色が見え、下からの風が実に心地良く感じられる。そこは二俣に分かれている場所で、直進は間違いルート。左が正解。そこには目印として、木の枝に「靴一足とシュリング」が掛かっている。これなら迷う人はいないはず。登山靴に履き替え、その左ルートに登っていく。しかしかなりの急登で、木の根などに掴まりながら、なんとか登っていく。やがて杉林になり、先が見えてくる。1時少し前に、無事「三ノ塔尾根」の登山道に出る。休憩の後、左に降りて行く。杉林の中は、2、3組ぐらいしか登山者に出会わず、とても静かな山歩きとなる。

2時40分、大倉に到着し、タクシーで「湯花楽」に行き、汗を流す。沢登りには絶好の天気、内容的にも、大変充実した一日となる。

(記:I)





